

# 熊本市フッ化物洗口事業実施手順

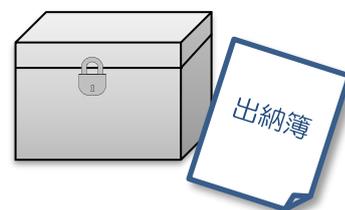
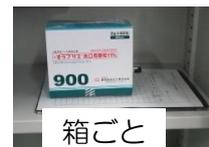
## 1 事前準備

### (1) 指示書の保管

学校歯科医からの指示に基づき、施設におけるフッ化物洗口を実施します。  
※指示書は、学校から学校歯科医に作成を依頼します。

### (2) フッ化物洗口剤の管理・保管

- フッ化物洗口剤は、実施施設で保管・管理を行います。使用期限内か確認しましょう。
- フッ化物洗口剤は、こどもの手が届かないよう、実施施設の鍵付保管庫等で箱ごと保管します。
- フッ化物洗口剤は、使用の都度、「フッ化物洗口薬剤出納簿」に記入します。
- 洗口剤は、1回分ずつ仕分けします。



### (3) 器具や機材の準備

フッ化物洗口を実施する時に必要な物品をそろえておきます。  
ただし、手洗い用の消毒液等フッ化物洗口液以外の液体物を同じ場所に置かないようにしましょう。

<洗口剤以外の標準的な準備物(例)>

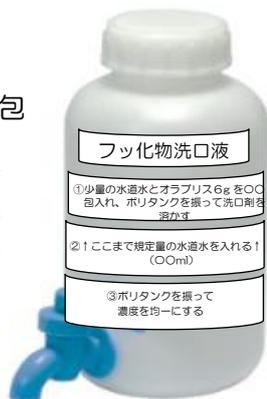
- 洗口液を溶解するポリタンク(大規模校などで使用)
- 専用ボトル
- 水用のボトル(希望しない児童には水を分注)
- ジョウゴ・紙コップ・カゴ
- 時間を計るもの(音楽CDやタイマー等)
- 注意事項(洗口時等)のボード
- ビニール袋、ティッシュ
- 名簿・ペン・テープ等



※学校によって使用するボトルが異なります

#### ポリタンクに記載する事項(例)

- フッ化物洗口液
- ①少量の水道水とオラプリス6gを〇〇包入れ、ポリタンクを振って洗口剤を溶かす
- ②↑ここまで規定量の水道水を入れる↑(〇〇mL)
- ③ポリタンクを振って濃度を均一にする



#### 専用ボトルに記載する事項(例)

- フッ化物洗口液
- ↑ここまで洗口液を入れる↑(〇〇mL)
- 〇年〇組

※ポリタンクを使わず、右の専用ボトルで直接洗口液を調製する場合は、水を先に入れて洗口剤を入れるので、ボトルに「①ここまで水道水を入れる↑」と「②オラプリス6gを1包入れる」の表示をする



## 2 実施手順

### (1) 洗口液を作る

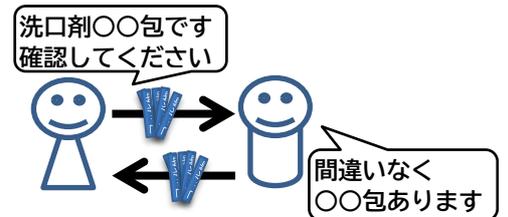
複数人で確認しながら調製します

- ① 鍵付保管庫から必要数のフッ化物洗口剤を取り出し、フッ化物洗口剤出納簿に記入します。
- ② 1人が洗口剤の数を確認し、「洗口剤〇〇包です。確認してください。」と別のもう1人に渡し、渡された者は数を確認して「〇〇包で間違いありません。」と渡した者に戻します。(クロスチェック)
- ③ ポリタンクに少量の水(200mL程度)を入れ、②で確認した洗口剤もポリタンクに入れます。  
洗口剤の空包は、ポリタンクに貼るか、箱等に入れて横に置きます。(確認のため)  
調製時の事故防止のため、まとめて調製し、分けます。
- ④ ポリタンクを振って洗口剤を溶かします。
- ⑤ ポリタンクに必要量の水道水(事前に記した適正濃度に必要な水量の線まで)を入れ、ポリタンクを軽く振って溶かします(濃度を均一にする)。

※少量の場合は、③～⑤は省略し専用ボトルで直接洗口液を調整することができます。

- ⑥ ポリタンクから必要数の専用ボトルに調製した洗口液を分注します。  
※ ディスペンサー付ボトルの場合は、最初の分注分と最後の残量の廃棄分を考慮し、実際の人数分にクラス数×約100mLの追加が必要です。

※洗口液の調整方法は学校に応じて変更可能です。



## (2) 1人1人の紙コップへ分注

- ① 専用ボトルと必要物品を実施する教室等に運びます。
- ② 紙コップに10mLずつ（1人分）洗口液を分注します。
  - 専用ボトル（右図）の場合、ボトル中央部を押し、10mL測り、紙コップに分注します。



- ディスペンサー付ボトル（右図）の場合、2回プッシュして紙コップに分注します（1回プッシュで5mL出ます）。  
最初と最後は適量が出ないため、廃棄します。



※あらかじめ分注した紙コップを、カゴに入れて持って行くことも可能です。  
※分注は、慣れてきたら、児童生徒の発達段階や状況に応じて、児童生徒の当番制にすることも可能です。

## (3) 洗口の実施

- ① 名簿等にて洗口を希望しない児童を確認しながら確実に実施します。  
洗口を希望しない児童が水でうがいをする場合は、紙コップの色を変える等の対応をとります。（水うがいをしない学校もあり）  
また、紙コップを使用しない場合は、ガラス以外の素材のコップ（児童のプラスチック製のマイコップなど）を使用します。洗口後は洗口液を流し場に廃棄し、コップを各自で洗浄するよう児童に伝えます。
- ② 全員に紙コップとティッシュが配布されたら、洗口時のお約束をボードで説明します。洗口用音楽をかけて、一斉に洗口液を口に含み、全ての歯にいきわたるようにブクブクうがいを1分間続けます。
  - ※ 説明用ボードは、黒板に貼って児童と読み上げることもできます。実施に慣れている学年は説明を省略することもできます。
  - ※ 時間はCDのほか、タイマー、砂時計等を使用することもできます。

## (4) 洗口の終了

- ① 洗口が終わったら、各自の紙コップに静かに吐き出し、紙コップの中にティッシュを入れるよう児童に伝えます。紙コップはビニール袋に回収します。

- ② 洗口後30分間はうがいや、飲食物をとらないように児童に伝えます。
- ③ 洗口用音楽 CD、説明用ボード、紙コップ等を回収したビニール袋、カゴは洗口剤を調製した場所に持って戻ります。

## (5) 洗浄・消毒

### 【ポリタンク及び専用ボトルの洗浄と消毒】

余った洗口液を洗い場に廃棄し、ボトル（タンク）を水ですすぎ、水切りカゴに入れ乾燥させます。

清潔を保つため、必要に応じて清掃消毒を行います。

### 【消毒の方法】※長期の休みに入る前など必要に応じて実施

消毒の方法については、学校給食の食器の取り扱い等に準じてください。（水による洗浄後、0.02%次亜塩素酸ナトリウム水溶液に5分間以上浸して消毒し、水道水でよくすすいで乾かします。）

薬液濃度	薬液量	水量
5%	4mL	1,000mL
10%	2mL	1,000mL

（参考）約0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液の作製

## (6) 片付け・実施報告書作成

- ① 出勤簿に実施状況を記入し、従事者はサインをします。  
出勤簿・フッ化物洗口剤出納簿は、学校職員にサインを依頼します。
- ② 余った紙コップをまとめておきます。次回の準備もしておくこと次回スムーズに始められます。
- ③ 今後の学校の予定や受託人員を確認し、欠席の場合は受託者を確保します。
- ④ 在庫等確認は適宜実施し、不足するときは、保健こども課に連絡し準備します。

## (7) 900ppm フッ化物洗口液を誤飲した場合の対応

対応	体重1Kgあたりのフッ化物量 (mgF)	体重別の誤飲量			
		20Kg	30Kg	40Kg	50Kg
特に必要なし	2mgF/Kg 未満	44ml 未満 (4人分以下)	67ml 未満 (6人分以下)	89ml 未満 (8人分以下)	110ml 未満 (10人分以下)
カルシウムを与える ※牛乳を与えて数時間様子を見る 吐かせる必要はない	2mgF/Kg 以上	44ml 以上 (5人分以上)	67ml 以上 (7人分以上)	89ml 以上 (9人分以上)	110ml 未満 (11人分以上)
病院を受診し、適切な処置を受ける ※吐かせる <b>※救急搬送</b>	5mgF/Kg 以上	111ml 以上 (11人分以上)	167ml 以上 (16人分以上)	222ml 以上 (22人分以上)	278ml 以上 (27人分以上)
緊急入院させる ※吐かせる <b>※救急搬送</b>	15mgF/Kg 以上	333ml 以上 (33人分以上)	500ml 以上 (50人分以上)	667ml 以上 (66人分以上)	883ml 以上 (88人分以上)

### ■対応に困った場合

不安な事等がある場合は、学校歯科医や区役所保健こども課に相談する。